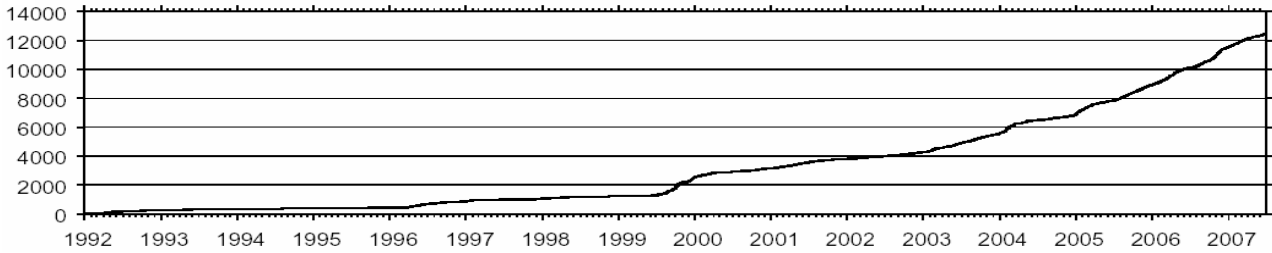
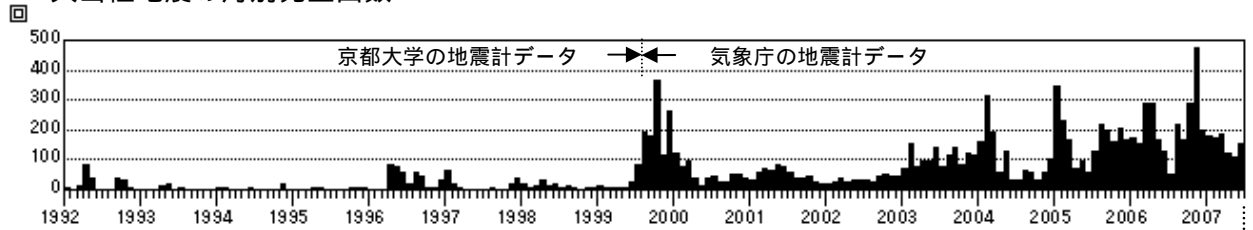


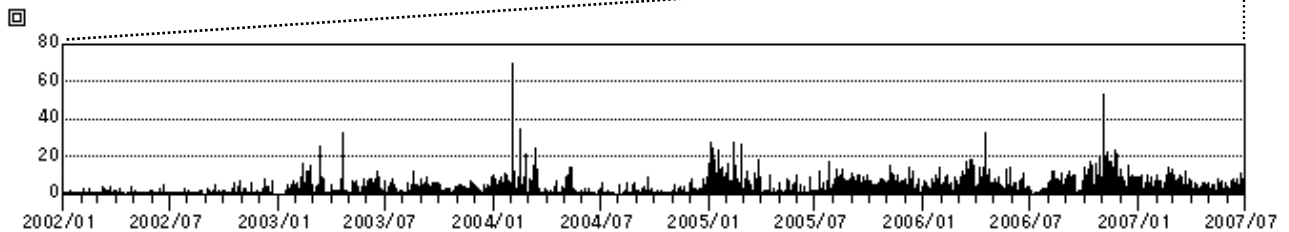
回 火山性地震日別積算回数



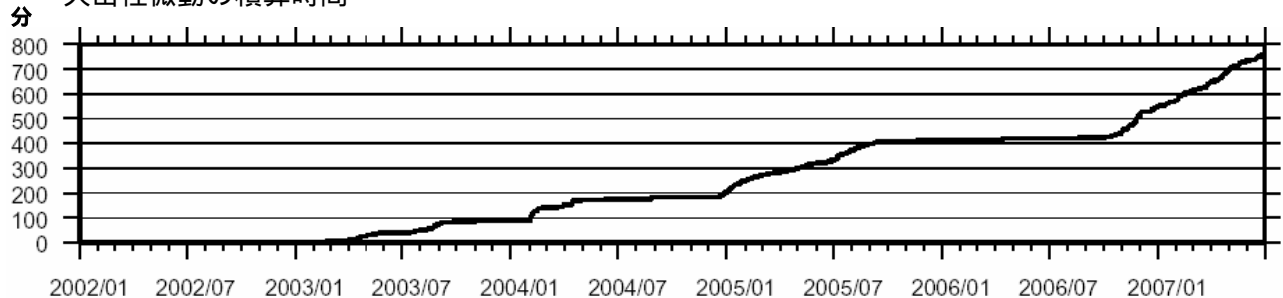
火山性地震の月別発生回数



火山性地震の日別発生回数



火山性微動の積算時間



火山性微動の日積算時間

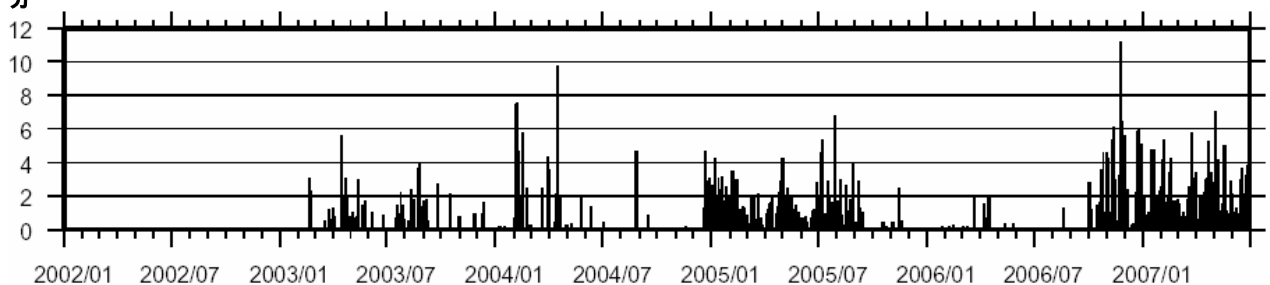


図2 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992年1月1日~2007年6月30日)
 ・2005年7月以降、火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
 ・火山性微動は2003年2月から時々観測され、2006年10月以降、やや多い状態で推移しています。

* 1982年1月1日~1999年9月12日及び2005年12月15~28日までは京都大学のデータを使用しました。
 * 2002年12月22日~2003年1月11日まで地震計1の機器障害のため欠測しました。また、2005年7月9日~9月18日、2005年11月5日~12月14日までは地震計1の機器障害のため、地震計3で回数を計数しました。

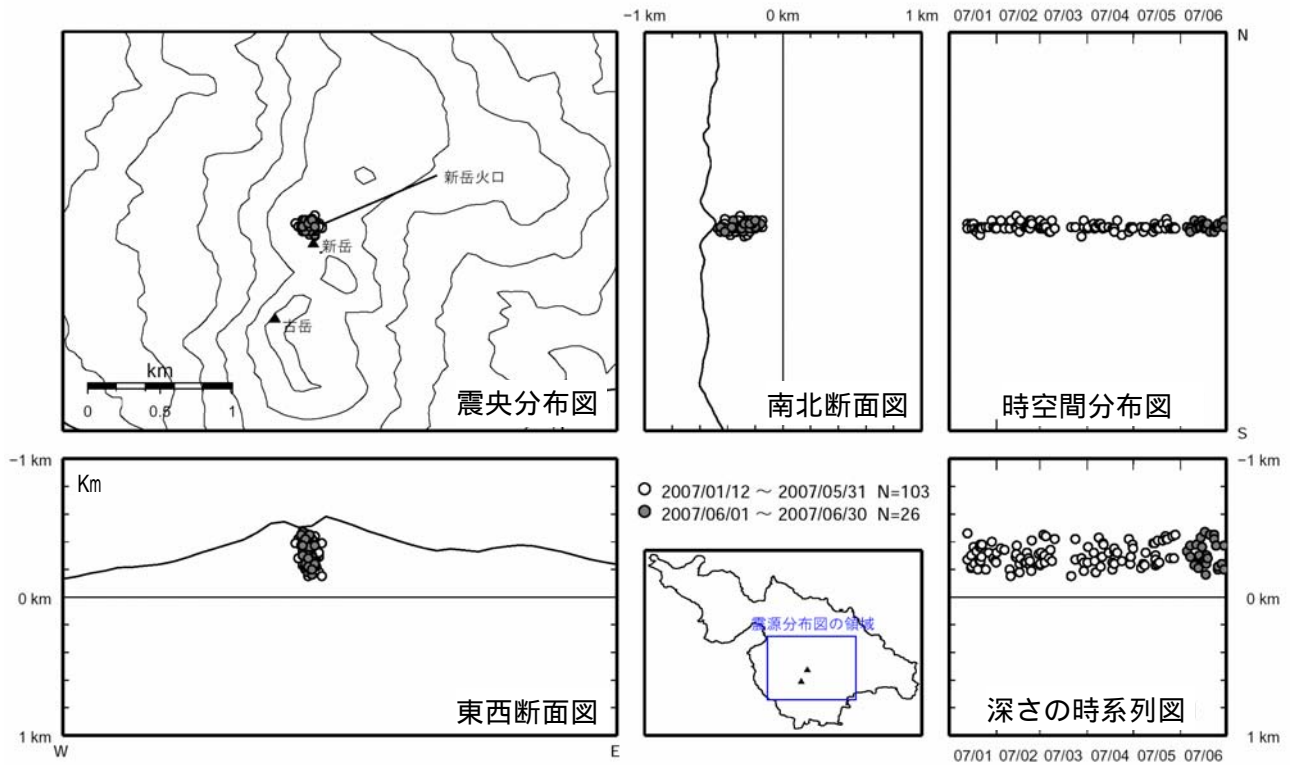


図3 口永良部島 震源分布図(2007年1月12日~6月30日)

- ・火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。
- * 1月12日から京都大学のデータも用いて震源を求めています。

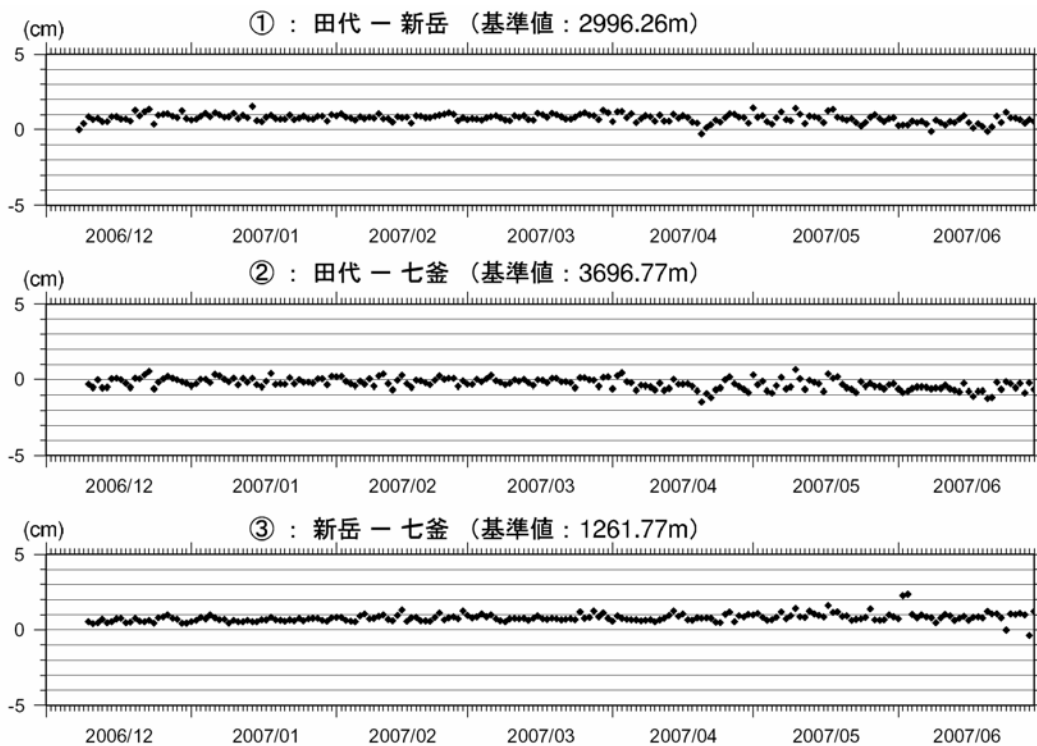


図4 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化(2006年12月8日~2007年6月30日)

火山活動に起因するような変化はありませんでした。
この基線は図1の ~ に対応しています。